

# 古都了の展

世界遺産 東寺

真言宗総本山 教王護国寺

真言宗立教開宗一二〇〇年記念

二〇二三年九月二日(土)～四日(日)

# 1 ごあいさつ

## ●主催者代表 小林義隆

本日はご多忙のところ、真言宗立教開宗 1200 年記念『古都アート展』の開会式にお越しいただき、誠にありがとうございます。開会にあたり、この度、本展開催に多大なるご協力をくださった東寺様とご関係者様に厚く御礼申し上げます。また、作品をご出展くださいました芸術家の皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。国民みらい出版の代表といたしまして一言ごあいさつ申し上げます。

本展は弘法大師空海の生誕 1250 年を記念し、生涯を通して空海が尽くした教育と芸術文化の発展、幸福への祈りを“現代の美の追求者”たちが継承し、後世に伝えていくことを願い開催する展覧会です。弊社はこれまで全国の創作者のアート・文芸作品を特別製の灯籠にあつらえ、展示する『あかり展』を春日大社はじめ、薬師寺、東大寺などで開催して参りました。境内に展示された灯籠のあかりに仄かに浮かび上がった芸術・文芸作品は来場者を魅了し、好評を博して参りました。5 回目となる今回は芸術家・文芸作家の作品を施した灯籠のほか、実物作品を展示するスペースも初めて設けました。幽玄なあかりとともに出展者の切なる願いが込められた作品に多くの来場者が感銘を受けることでしょう。

本展がご出展者皆様の制作活動のご発展とともに、日本の芸術文化振興につながることを祈りつつ、開会のあいさつとかえさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

## ●本展監修 正岡明

皆さま、この度はようこそ京都の東寺へお越しくださいました。私は詩歌・アートなどの評論を担当している正岡と申します。関西圏では奈良と京都という古い都でのイベントを交互に開催して参りました。今回は松山とのご縁から、この名刹・東寺とのありがたきご縁をいただくことができ、大変うれしく思っております。

平安時代、平安京の正門に当たる羅城門の左右に、当時は西寺と東寺が建立され平安京を守る寺、国家鎮護の寺として大変重要な位置にありました。そのような由緒ある場所で、しかも 823 年に弘法大師・空海が開祖されてから今年で 1200 年という記念すべき節目に本イベントを開催できたことに東寺および関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

空海の風信帖が国宝に指定され東寺に所蔵されていますが、私の祖父・加藤拓川が風信帖の複製を持っていたことが先日判明しました。子規を継いだ父・正岡忠三郎がその複製を司馬遼太郎氏に差し上げた時の礼状が見つかったのです。そこには司馬氏の直筆で「驚き入り恐縮狂喜致し、かつ拓川の署名に感動つかまつりました」と記されていました。ご縁と



というのはどこでつながるかわからないものです。

この3年半は、コロナパンデミックという予期せぬ事態が起こり、今まだ終息しておりません。そして、まだ日本は平穏ですが世界は紛争が絶えず、昨年2月に勃発したロシアとウクライナの戦争も終結の見通しが立たないどころか、戦火が広がる懸念も危惧されております。このような状況で芸術・文芸が役に立つのか、という声も聞こえますがこのような時こそ、人々の心に光と希望を与えるアートの力が試されていると思えます。

この3月には新宿でエコをテーマに『エコロジカルアート展』を開催。環境破壊や戦争の対局にある芸術の存在意義は、今後益々重みを増してくるものと思います。皆様の今後の発展とご健康を心より祈念申し上げて、私のあいさつに代えさせていただきます。

#### ●東寺 長者 飛鷹全隆様

皆さんこんにちは。芸術家、ご関係者の皆さま方、全国から東寺にお越しいただきましてありがとうございます。

弘法大師が嵯峨天皇から東寺を任されました823年、後任14年から数えましてちょうど1200年になります。今秋10月8日から14日まで盛大な法要が行われるのですが、それに先立ちまして皆さま方の珠玉の芸術作品の数々を食堂に展示させていただいたことは、大変ありがたいご縁と思います。私は愛媛県の一角で生まれましたので、皆さまともご縁が深い正岡子規や夏目漱石のことは同県ということもあり、存じ上げておりました。この度改めて拝見、勉強させていただきますと、正岡子規は短命のなかでも努力をなさって数々の俳句や歌をお遺しになり、漱石とも大変密なるご関係でいらっしゃり、大切なご縁を感じるばかりでございます。

弘法大師は中国に渡り、お師匠さんに出会い、そこで全ての真言密教を授かったのです。インドから渡ってきた密教ですのでインドの言葉もできなければならぬなか、中国へ来てわずか3カ月でインド人のお坊さんを見つけてマスターしたのです。そういうご縁というものはかけがえのない大切なものです。先ほど会場を拝見いたしますと、環境問題や平和など立派なテーマの作品があり感心いたしましたけれども、思いの違いはあっても、東寺にお越しくださるたくさんの方とのご縁も、大変ありがたいことかと思えます。

この度は本当にご縁をいただきましてありがとうございます。



## 2 開催概要

### 古都アート展

会 期	2023年9月2日(土)～9月4日(月)
開催時間	9:00～16:30(最終日は13:00まで)
会 場	真言宗総本山 東寺〔教王護国寺〕 食堂(じきどう)
展 示	下記参照
入 場 料	無料
主 催	古都アート展実行委員会
企画運営	株式会社国民みらい出版
後 援	京都府、京都市、京都新聞、KBS 京都
協 力	東寺保育園
広報活動	マスコミ各社にプレスリリースを配布

## 3 展示構成

### 絵画および平面作品(実物)

油彩画、アクリル画、水彩画、水墨画、紙画(日本画風)、仏画、龍神アート、墨・パステル、オイルパステル画、ペン画、チョークアート、写真、書道

### 立体および工芸作品(実物)

モダン・うるし・アート、和紙ちぎり絵、染色、日本刺繍、パッチワークキルト、アートフリーレースコラージュ、レザークラフト、メタルエンボッシングアート、立体華曼茶羅(シャドウアート)、水引ジュエリー、彫塑工芸、手編みニットウエア、ソーブカービング、耐熱ガラスアート、七宝焼、フラワーデザイン、フラワーアレンジメント

### 灯籠

アート作品、俳句、短歌、自由口語律短歌、川柳、現代詩、ノンフィクション文学

### 児童作品

東寺保育園



## 4 開催レポート

2023年は弘法大師空海が嵯峨天皇から東寺を託され、日本ではじめての密教寺院が誕生して1200年を迎えました。1200年の間、幾度も天災に遭いながらも多くの人々に支えられて復興を遂げ、現在も弘法大師空海を伝える真言密教の道場として法灯を守り続けています。

代表・小林のあいさつにもありましたが、弊社はこれまで全国の創作者のアート・文芸作品を施した灯籠を展示する『あかり展』を複数回開催して参りました。仄かなあかりを通して浮かび上がる芸術・文芸作品は、平和な世界への道しるべとして春日大社や薬師寺に奉納されています。今回も創作者一人ひとりの祈りや願いがコロナ禍や不条理な戦争を払拭したいという“平和への希望”となって、国内外から来られた多くの来場者の心に深く刻まれたことと思います。

境内の南から北に向かって金堂、講堂、今回の展示会場である食堂と真っすぐに大伽藍が並ぶこの配置は、仏法僧が表現されています。金堂には本尊の「仏」、講堂は密教の教え「法」、そして食堂が「僧」、生活のなかに修行を見いだす場所と位置づけられています。その食堂半分のスペースを使わせていただき作品を展示。お堂という独特の空気の中展示された幅広い技法の絵画をはじめ、書道、伝統的工芸、アクセサリー、フラワーと、さまざまなジャンルの実物作品や灯籠は、お堂に設置されている神々しい仏像と仏画に見守られながら堂々と鎮座し、厳かな空間との競演を楽しんでいるかのように見受けられました。あるときは芸術家として、またあるときは宗教家としてあらゆる分野に渡り、大きな功績を遺した弘法大師空海が貫いた“芸術文化の発展”に一石を投じることができたことと自負しております。

弘法大師空海の1100年御遠忌にあたり再建された小子房は、迎賓館として天皇をお迎えする特別なところ。一般公開されることのない内部は6室で構成され、そのなかの一室「勅使の間」を今回特別に公開していただき、金色の地に極彩色で描かれた“溪流に鶴”と“日輪山嶽図”を、千載一遇の機会とばかりに神妙な趣で観覧されている出展者の姿が強く印象に残っています。

東寺敷地内に設立されている東寺保育園の園児たちの作品も展示。夏野菜（京野菜）をテーマにした新作を描いていただきました。保育園児とはいえ、月1回絵画の先生の指導を受け創作しているという子どもたちの絵は発想力に優れ、伸び伸びとした感性が伝わってくる作品ばかり。そうした作品を見て作品づくりに着想を得た創作者の方もいらっしまったのではないのでしょうか。

### 所感

弊社は本展の監修でもある正岡明氏と深いご縁があるゆえ『古都アート展』を東寺にて開催することができました。飛鷹全隆長者と正岡明氏のあいさつにもありましたが、世の中はすべて“ご縁”で成り立っていることを日々感じるばかりでございます。

数え切れないほどの参拝客が東寺を訪れていることを目の当たりにして、弘法大師空海が観衆に与えた影響は現代にも継承されていることを実感することができました。その流れで会場に足を運んでくださった方や、今回は京都市のアートイベント情報掲載サイト KYOTO ARTBOX に登録していたこともあり、予想を遥かに越えた来場者が訪れました。こうして多くの皆さまに創作者の切なる願いが込められた作品をご観覧いただけたことは、弊社にとっても嬉しいことであるとともに重責が果たせ安堵感に浸っております。

今回ご協力いただきました出展者の皆さまはじめ、会場をご提供いただいた東寺さまと東寺保育園の関係者の皆さまに心より感謝申し上げますとともに、皆さま方の今後のご発展を心よりお祈り申し上げます。





